

採用の流れ

消防士は、市町村の地方公務員です。採用されるには、市町村の実施する消防吏員の採用試験（筆記・体力・面接など）に合格する必要があります。受験できる年齢や試験の内容は、市町村ごとに異なります。

STEP
01

採用試験

受験資格や申込受付期間などについては、各消防本部にお問い合わせください。

STEP
02

採用

合格すると消防士の仲間入り！

STEP
03

消防学校入校

6ヶ月程度の「初任教育」で消防業務の基礎を修得！

STEP
04

消防署配置

消防署に配置後、実務を経験しながら一人前の消防士へ！

Q&A

よくある質問に先輩が答えます！



勤務時間について教えてください

市役所の事務職と同じ「**毎日勤務**」と24時間単位（うち約8時間は休憩や仮眠の時間）の「**交替制勤務**」に大別されます。勤務時間はどちらも地方公務員法等に基づき市町村の条例で定められており、**原則4週間に8日間の休暇**があります。



転勤はありますか？

「消防士」は各自治体での採用であり、**地方公務員**に分類されます。人事異動により、担当業務が変わったり、別の消防署へ職場が変わることはありますが、管轄している地域以外への**転勤は基本的にはありません**。



「消防」は女性も活躍できる仕事ですか？

現在、全国各地で**5,000名を超える女性消防士**が災害対応をはじめ**様々な業務で活躍**しています。**福利厚生制度が充実**しており、多種多様な趣味を楽しむ方やママさん消防士として**子育てと仕事を両立**している方もいます。



“わたらしさ”を



大切な街と人のために。



女性消防士への一步をここから

詳しくはコチラでもご紹介しています。ぜひご覧ください！

女性消防吏員の
活躍推進のための
ポータルサイト



総務省消防庁
-女性活躍-
Facebookページ



FDMA 総務省消防庁
住民とともに Fire and Disaster Management Agency

FDMA 総務省消防庁
住民とともに Fire and Disaster Management Agency



“自分らしさ”が 消防の世界に生きる

生まれ育った街や、大切な人を守るために。

今日も数多くの女性消防士が、

日本各地のあらゆる現場で活躍しています。

消防、救助、救急、通信指令、火災予防、総務など

消防の世界は想像以上に幅広く、

“自分らしさ”を発揮できる仕事に、きっと巡り合えるでしょう。

性別や年齢に関わらず、安心して働き続けられる環境が整っています。

らしさを、チカラに、命を守る。

さあ、それぞれの想いを胸に、一步を踏み出しましょう。

ライフイベントをサポート

- 育児短時間勤務制度
- 産前産後休暇
- 部分休業
- 育児休業

出産
子育て

“自分らしさ”を発揮

「消防」には、消防隊、救急隊、通信指令など多様な職種があり、「守る」の形は様々です。

“自分らしさ”を発揮できる場所があります。

多様な
職種

自分のペースで 挑戦を続けていくために

性別や年齢に関わらず、
安心して働き続けられる環境が
整っています。

働きやすい
職場環境

ライフ・ワーク
バランスの
推進

女性専用施設の整備

「消防」は女性も活躍できる場所です。
女性が安心して使用できる
仮眠室・更衣室・トイレ・浴室等の
整備を進めています。

仕事もプライベートも充実

消防職員は「地方公務員」です。
原則4週間に8日間の休みがあり、また
1年間に20日の年次有給休暇が付与
されます。加えて、慶弔休暇・夏季休
暇・長期継続休暇等の各種休暇制度
があります。



職種紹介

各市町村の消防本部では、さまざまな業務を通じて人々の生命を守ります。
ここで紹介する業務の他にも多彩な分野で活躍することができます。

動画でも業務や
職種について
ご紹介しています。



消防隊

火災等の災害現場において、活動の中心を担うのが「消防隊（ポンプ隊）」です。その任務は、消火だけではなく、救助隊とともに救助活動にあたることや、救急隊と連携し救急活動や搬送の支援にあたることもあります。また、災害対応以外にも、学校や町内会等の防災訓練や保育園での車両展示に出向くなど、幅広い場面で活躍しています。



救助隊

火災や交通事故、自然災害などの災害現場で、専門的な知識や技術、特殊な資機材を駆使し、人命救助を第一任務とするのが「救助隊」です。オレンジ色の服に身を包み、「レスキュー隊」とも称される人命救助のスペシャリストです。山における事故に対応する「山岳救助隊」、海や川の事故に対応する「水難救助隊」などがあります。



通信指令

火災・救助・救急等、住民からの「119番通報」を受けるのが「通信指令業務」です。通報内容を手がかりに、火災や救急等の事案の発生現場を特定し、必要な部隊を選択、出動を指示します。現場への部隊の誘導や統制も行います。通報者から適切な情報を収集し、災害出動した各部隊が円滑に活動できるように情報提供をすることも重要な仕事です。



指揮隊

災害現場で消火や救助活動等を指揮・命令するのが「指揮隊」です。災害現場における各種情報を収集し、被害状況等を的確に把握して、各部隊に指揮・命令するとともに、活動隊員の安全を管理し、二次災害の防止を図りながら、被害を最小限にとどめることを任務としており、災害現場に出場する部隊の総合的な統括を行います。



救急隊

急病人の発生、事故、災害等の救急現場に急行し、傷病者に適切な応急処置を行いながら、医療機関に搬送するのが「救急隊」です。救急隊員の中でも、救急救命士は心肺停止等の重症傷病者に対して、医師の指示のもと高度な救急救命処置を行います。また、日常的に応急手当に関する啓発のために救急救命講習等も行っています。



機関員

消防車、救急車、はしご車等の運転・操作を任務としているのが「機関員」です。出動指令を受けると、消防車両を運転し、安全・確実・迅速に災害現場へ部隊を到着させます。普段は、様々な訓練を行ったり、管轄地区を巡回して地理や消防水利（消火栓等）の把握、出場経路の確認等を行っています。



予防業務

火災の発生を未然に防ぎ、被害を最小限にとどめることを使命としているのが「予防業務」です。主な業務は、建物や店舗へ出向き、消防用設備等のハード面、防火管理体制等のソフト面に不備事項がないか検査、是正指導を行うほか、地域住民と連携し、街の防災力の向上に取り組んでいます。



総務業務

消防に関する予算、人事、給与、施設管理、福利厚生等の事務全般を担当するのが「総務業務」です。基本的には毎日勤務で、デスクワークを中心とした業務となります。消防職員みんなが安心して働ける環境を整え、幅広いサポートを提供している、すべての消防士にとっての「緑の下の方」のような存在です。



「最後の砦」
その使命を胸に、
あらゆる任務に
全力で挑み続ける。

救助隊

日向 愛理 Hinata Eri
愛知県 瀬戸市消防本部



自分ならではの強みを活かし、かけがえのない命を救い出す。

救助隊は、消防の中でも「最後の砦」と呼ばれる部隊で、さまざまな人命救助活動に携わります。火災現場をはじめ、街中での交通事故、山岳での滑落事故、河川での水難事故など、その現場は多岐にわたり、消防隊や救急隊はもちろんのこと、時には警察や自衛隊とも連携して要救助者の命を救うために活動しています。

山で行方不明になった登山グループの救助に向かった時のこと。防災ヘリコプターとの連携による捜索の末、無事に救出して下山することになりました。その際に励ましの言葉をかけ続けたのですが、任務が終了した時に

ヘリ隊員の方から、「女性ならではの細かい気配りで、要救助者の方も安心されていましたね」という言葉をいただき、女性隊員としての自分に自信を持つきっかけになりました。現場では小柄さが重宝される場面も多く、大柄な男性隊員にはできない作業を任されることも少なくありません。視野を広く持ち、周囲の状況に気を配ることで、性別に関わらず自分ならではの強みを活かし活躍できる環境があります。今後は救助隊員として更なるスキルアップに励むとともに、学生時代に取得した教員の資格を活かして後輩たちの育成にも力を入れていきたいです。

1日のスケジュール（瀬戸市消防本部の例） [勤務時間 8:30～翌8:30] 24時間隔日勤務

8:00 （着替え等）	8:30 出動 資機材点検	9:15 打ち合わせ	9:45 点検・訓練 （はしご車）	12:00 昼食、休憩	13:00 火災・救助訓練	17:15 夕食、休憩	18:15 自主訓練等、事務処理、等	0:00 仮眠	6:30 朝食、事務処理	8:30 大交替 （帰宅）
----------------	---------------------	---------------	-------------------------	----------------	------------------	----------------	-----------------------	------------	-----------------	---------------------

応募動機

幼い頃に近所の住宅が全焼する火災に遭い、窓から噴き出す炎を目にした私は、不安と恐怖に包まれていました。その時大きなサイレンの音とともに、防火衣をまとった消防士が登場。真剣な眼差しで人命救助にあたる姿に

憧れを抱き、「私も誰かを助ける存在になりたい」といつしか消防士を志すようになりました。また、昔からスポーツが好きで体を動かす仕事に就きたいと思っていたことも志望理由のひとつです。



助けを求める人々の声を頼りに、全部隊を動かす司令塔として。

通信指令は、火災・救助・救急等の119番通報を受け、助けを求める地域住民と最初に接する「人命救助の窓口」です。通報者の表情や現場の状況が見えないため、相手の立場に立ち、ゆっくり・はっきりした口調で、「いつ・どこで・誰が・なぜ・何を」といった必要情報を確実・迅速に聴取することが欠かせません。そしてその情報をもとに、必要な部隊を選択して出動を指示するほか、必要に応じて通報者に応急手当の方法を指導します。「心肺停止の傷病者がいる」との通報を受けた時は、動揺している通報者を落ち着かせ、心肺蘇生法について順を追って説明し、救急隊到着までの間、通報者に救命処置を実施してもらいました。その一月後に傷病者は無事に退院できたことを知ったときは、通報者と救急隊と連携して命を救えたことに、大きな喜びと誇りを感じることができました。同じ通報は一つとしてなく、臨機応変な対応が求められる責任の重い仕事ですが、好きな地元の人々を守る最前線で働けることに日々やりがいを感じています。また、上司や同僚とは家族のように何でも気軽に相談し合える関係を築いています。これからも消防士として、この街を、大切な人を、守り続けていきたいです。



応募動機

幼い頃から運動が好きだった私は、小学生の頃から陸上部に所属していました。共に切磋琢磨してきた友人たちは、当時も今も、私にとって何よりも大切な存在です。そんな友人たちと陸上大会に出場した時のこと。大会後に一人が倒れて救急搬送され、残念ながら亡くなってしまったのです。私は大きなショックを受け、そのことがきっかけとなり「誰かの命を助ける仕事に就きたい」と決意し、困っている人のもとにいち早く駆けつける消防士を志望しました。



応募動機

高校生の時にバイク事故に遭い、救急車で搬送される経験をしました。その時に初めて、救急救命士の存在を知ること。怪我を負って不安だった私に、「聞いてくれるだけでいいよ」と、隊員は冷静に的確な処置を施してくださりました。それをきっかけに、救急救命士として人の役に立つことが私の目標となりました。消防で働き始めて2年ほどが経った頃、私を助けてくれた救急救命士の方と偶然にお会いし、会話を交わしたことは今でも忘れられません。



いち早く傷病者のもとへ駆けつけ、心身ともに痛みを和らげる。

救急隊は、急病、事故、災害などの現場にいち早く駆けつけ、苦しんでいる方に寄り添い、心身ともに痛みを和らげる使命を担っています。山梨県は山々が多いこともあり、山間部での交通事故や滑落事故など、標高の高い過酷な現場に赴くことも少なくありません。大変なことも多いですが、傷病者やそのご家族から「女性隊員の方がいて安心しました」と感謝の言葉をいただくことが、日々のやりがいです。そして、私自身は救急隊の隊長であり、一児の母親でもあります。約1年3ヶ月の産休・育休を取得し、日勤での勤務を経て、救急隊に復帰しました。母親になってからは子どもを心配する親の気持ちがよくわかるようになり、病気や怪我をした子どもを搬送する際には、母としての視点や経験が仕事に活かされていると実感します。もちろん、仕事と子育てを両立することは簡単ではありませんが、夫や同僚のサポートを得ながら、休日には家族でキャンプや旅行に出かけるなど、メリハリを大切に無理せず働くことができています。これからは、私自身がママ消防士のロールモデルとなり、子育てと仕事を両立しやすい環境づくりに尽力していきたいです。

充実した研修サポート制度（教育制度）

消防業務に関する知識や技能の習得・向上のため、各消防本部ではもちろんのこと、各都道府県等の「消防学校」で様々な教育訓練を受けます。また、高度な知識や技能、幹部としての必要なマネジメント能力を習得するため、「消防大学校（東京都調布市）」で教育訓練を受ける機会もあります。



消防学校について

消防に関する知識や技能の習得・向上のため、採用された消防本部ではもちろんのこと、都道府県等の消防学校で教育訓練を受けます。

消防学校について動画でも詳しくご紹介しています。



● 初任教育

新たに採用された消防士は、消防署等へ配属される前に、「初任教育」として6ヶ月間程度、全寮制の消防学校に入校し、消防士としての基礎的な知識や技能、体力を身につけます。また、消防職員として必要な服務規律や安全管理についても学びます。



消防士としての心得、消防組織について、法制度・服務規律など消防士としての基礎を学びます。



各業務に関する基礎知識や消防用設備・建築・救急に関する知識を身につけます。



消防活動におけるホースやロープ、救助器具の使用方法などの基本的な動作などを学ぶほか、筋力・体力の錬成も行います。

Q&A



体力に自信がありませんが…大丈夫でしょうか？

安心してください！

「初任教育」で、消防士として必要な知識・技能・体力を身につけます！



● キャリアアップのための教育課程

従事する業務に応じて必要となる知識・技能やキャリアアップの過程で必要となるスキルを学ぶために、消防学校では「専科教育」と「幹部教育」等が行われています。

専科教育

警防科、救急科、救助科、予防査察科、火災調査科等、各分野のスペシャリストとして業務ごとに必要な知識と技術等を学びます。

幹部教育

様々な消防部隊を管理運営するための現場指揮や部署の管理職等に必要となる事項を学びます。

消防大学校について

総務省消防庁に設置されている消防大学校では、各消防本部の幹部となる消防士に対する高度な教育や緊急消防援助隊（大規模災害発生時に全国の消防本部から出動する応援部隊）の活動を想定した高度な教育訓練を実施しています。

